



DV事件における 加害者への働きかけと 司法の役割

～**韓国**の制度から学ぶ

2022. **10/1** Sat.
14:00～16:30

参加費無料/要事前申込

申込締切(対面) 9/29(木)

ハイブリッド開催

神奈川大学横浜キャンパス24号館112 (法廷教室)
+オンライン(Zoomミーティング)

欧米やアジア諸国と比較して、「一人負け」状態の続く日本のDV施策。その中でも特に遅れている加害者へのアプローチに関して、制度改革による果敢な挑戦をつづけている韓国を、制度と実務の両面からご紹介いただき、日本のDV施策のこれからを考えます。

基調講演

「韓国の家庭暴力事件と家庭内暴力行為者プログラムの実践と課題」

宋賢鐘調査官 (韓国ソウル家庭法院調査官)

講演

「日本におけるDV加害者プログラムの履行と司法の役割 <試論>」

宮園久栄教授 (東洋学園大学人間科学部教授)

コメンテーター 「効果的なDV施策にするために必要なこと」

松村歌子(関西福祉科学大学健康福祉学部教授)

司会・コーディネーター 井上匡子(神奈川大学法学部教授)

主催：神奈川大学共同研究奨励助成研究

「福祉との協働による家事司法の新しい役割の可能性」(代表井上匡子)

科研費研究「DVの再加害防止に向けた法制度の総合的研究」(19K01438基盤研究(C)一般)

お申込み・お問い合わせ：ft101724@kanagawa-u.ac.jp 神奈川大学法学部井上匡子